

江戸時代の大名の乗り物といえば、すぐに駕籠が思い浮かぶことでしょう。この駕籠にもいろいろと種類があつて、大名が使っているような駕籠は当時、単に「乗物」と呼ばれていました。一方、時代劇などでよく知られている駕籠に比べて、江戸時代に大名が使っていた輿は必ずしも一般的ではありません。その珍しい輿の実物が、津山郷土博物館正面エントランスに展示されています。この輿は実際に津山藩主であつた松平家で使用されていたもので、行列絵にも描かれています。

この輿は、將軍宣下^{せんげ}のときの江戸城への登城や將軍家菩提寺参詣など、特別な場合のみに用いたもので、津山藩主は衣冠束帯の公家装束で使用しました。これは家臣たちも同様で、役職や格式に従つて公家の装束を着けます。通常は熨斗^{のしめ}目の着物に袴^{かみしも}を着けた武家姿ですから、見た目は大きく異なっています。

輿は、着座する床の四隅に柱を建てて屋根を載せたもので、床の台の下に輦^{ながえ}と呼ばれる棒を2本通しています。棒の上に人が乗るところと棒の下に人がぶら下がるところが、輿と駕籠の大きな違いです。

この輿の使用には、家の格式による制限があつて『武家撃要』には、公家装束を着用した場合に輿を使用することとして、その対象となる家を指定しています。それによれば、徳川御三家（尾張、水戸、紀伊）のほか越前松平家や加賀前田家などが列挙され、その中に津山松平家も含まれています。このように家の格式の高さを示すことにも大きな意味があつたので、松平家で輿を使用

津山城百聞録

～津山松平家の輿～



▲將軍宣下二付御登城之図



▲津山松平家で使用していた輿

するときには、ふだんは使わない金十文字槍や黒毛投げ鞘^{さや}などを行列で用いていたといわれています。津山松平家の輿は、前後5人ずつの合計10人が輦^{ながえ}を腰の高さで抱えて運びます。前後とも5人の中心の1人は、輦に結んだ紐^{ひも}や布を首に掛けて全体のバランスを取るような位置にいます。また輿の周囲が板で囲われているので、輿の形式としては板輿と呼ばれています。

現在、実際に大名家で使われていた「輿」と「乗物」が、ともに状態も良く保存されている例は少なく、専門家の注目を集めています。

6月中のひとの動き

人口	111,173人	(前月比+45)
男	53,046人	(同+1)
女	58,127人	(同+44)
世帯	43,379世帯	(同+55)
転入	284人	転出 239人
出生	80人	死亡 80人

(7月1日現在)



広報つやまは、環境保護のため古紙配合率100%再生紙、大豆油インキを使用しています。読み終えた後はリサイクルにご協力ください

つやま
広報

8月



編集・発行 (毎月10日発行)

津山市企画部市長公室 (市役所3階)
〒708-8501 岡山県津山市山北520番地
☎0868-23-2111(代) ☎0868-32-2152
Eメール kouhou@city.tsuyama.okayama.jp

☆広報つやまはホームページで閲覧できます。
<http://www.city.tsuyama.okayama.jp/>



毎年夏は子ども連れで鳥取の海へ。内陸に住む者にはいつも新鮮です。でも最近の砂浜は波に削られ、子どもが安心して遊べません。聞けば、川から海に出る砂の減少が一因とか。内陸と海とのつながりを改めて感じます。(X)



この夏どこかへお出かけされましたか?わが家は、子どもたちと旅行や海水浴に出かけていた時期が終わり、何だか手持ち無沙汰になりました…。こんなときは、身近なところで「ふるさと発見」してみるのいいかも。(元)



つ・ぶ・や・き

編集室

「算術の少年しのび泣けり夏」。この句の少年は、算数ができなくてシクシク泣いています。まるで原稿締め切りの私のを見ているようです。さて、夏休みも後半。みなさんの家の「少年」たちは、宿題、だいじょうぶ? (e)

